

藍を育て次へつなぐ

私は、毎年夏に行われる、ふるさと体験「藍の生葉染め」をお手伝いしています。体験では藍の葉を使ってストールを染めます。

藍染めと違う点は、生葉染めというように、藍の葉を摘んで染め液を作り染めることです。

いわゆる藍染めは、^{すくも}葉を使います。摘んだ葉を干してから、水を打って発酵させることを繰り返すと葉ができます。葉には青色素(インジゴ)が含まれています。この色素は、アルカリ性の水の中で還元させることで、水に溶けるようになります。こうして染め液を作る工程を「藍を建てる」「藍建て」といいます。藍染めは藍建てをして染めるものです。

藍染めは葉があれば、藍建てをして、いつでも染められます。木綿、麻もきれいに染まります。

生葉染めは、葉が育って採れたときにしか染められません。生葉に含まれる青色素の元を、同じく葉に含まれる酵素と反応させることで、一時的に水に溶けるようにして、染め液をつくります。染まるものはタンパク質であり、絹が良いとされます。

生葉染めをするにはまず、藍を育てなければなりません(園芸店にはほとんど売っていません)。3月の彼岸過ぎに、苗床に種をまき、5月の連休過ぎ、苗の大きさが10cm程になったら畑に移植します。

今年は天候不順で、雨が少なく、苗の発育が思わしくありませんでした。畑を見てはヒヤヒヤの連続でした。染める布に対して3~5倍の重量の葉が必要です。葉を摘む時期は葉の大きさが10cm程度のときがいいです。資料館では体験の実施日が決まっているので、藍の生育をあわせるのが大変難しく、毎年悩み、苦労しています。



藍の葉(収穫時期)

染める日は、晴天の午前中が良いとされます。水は、必ずカルキを抜いたものを、すべての工程で使います。まず葉を

め液をつくります。ミキサーにかけたら30分以内で染め上げます。それ以上になると染め液の化学反応が終わり、うまく染まらなくなります。発色は酸化することで進みますが、布を普通に外気に当てるより、水中で酸化させたほうがスカッとした色に仕上がるようです。このあと更に発色を促すためにオキシフル液(1%)に15分程浸します。こうしてストールが染め上がります。

今年も皆きれいに染まりました。白い布を染め液から水に入れたとき、緑から青になる瞬間が、とても感動的です。

しかし、体験が終わっても藍の仕事が終わるわけではありません。二度目の葉(二番葉)の収穫や、来年まく種を収穫しなければいけません。追肥をし、種採り用の株以外は、葉が適当な大きさになったところで二番葉を採ります。10月に花が咲き、10月末から11月に実がなります。ゴマ粒くらいです。去年は種を採ろうとしたときに霜が降り、満身に種が採れませんでした。今年は順調にいけますように… 祈るような気持ちです。

最後になりますが、体験の際、皆さんに紹介するものに「淡浅葱地 葵紋付花重文辻が花染小袖」(重要文化財・徳川美術館蔵)があります。これは400年以上前のものですが、模様は主に藍染めで、地色は生葉染めで作られたと考えられているものです。この再現の記録が書籍『ジャパンプルー 青の文化と家康小袖の再現』に収められています。生葉染めの歴史を垣間見ることができる小袖だと思います。機会がありましたら是非御覧下さい。

市民学芸員 河野 悦子



生葉染めの様子



藍の花

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

城跡シリーズ①『曲輪』くるわ

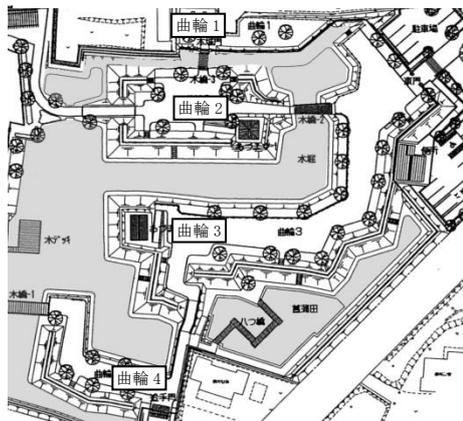
左上の難波田城の絵図（一六七二年にまとめられた絵図を写したものを）をご覧ください。難波田城は、何重もの水堀に囲まれた輪郭式と呼ばれる造りでした。堀に囲まれた部分には「本丸」「二ノ丸」「嶋郭」の記載があります。現在、難波田城公園では、堀に囲まれた部分を「曲輪」と表記し、中心に近い部分から番号を付けています。

「くるわ」は、中世・戦国期には「曲輪」と書かれ、また、「二之城」、「東構」、出城、御平庭のように「構」、「城」、「庭」とも呼ばれました。江戸時代に入る頃から「郭」や「廓」の字が使われ、また、「本丸」「二の丸」のように「丸」とも呼ぶようになったといえます。そのため絵図に「本丸」「島郭」の記載があると考えられます。難波田城は戦国時代の城跡であることから、公園では「曲輪」という表記を使っています。（稲植保美）

参考文献『日本史小百科 城郭』、『城の鑑賞基礎知識』、『城跡調査ハンドブック』



難波田城図(部分) 当館蔵



難波田城公園城跡ゾーン図(部分)

おもしろ・なつかし体験⑤⑤

「藍の型染め」に挑戦

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

毎年開催されている古民家宿泊体験に、今年も市内の小学生男女 11 名が参加しました。

今年の 2 日目の工作は「藍の型染め」です。

完成までの流れは、

- 1) 自分の名前の型紙を切り抜く
- 2) 型を使い布に防染糊をのせオガクズを付ける
- 3) 染め液(人工藍)に浸して布を染める
- 4) 糊をのせた部分は白く残り、模様となる

さあ、挑戦です。怪我のないように、市民学芸員が見守ります。自分の名前を切り抜いている様子は、私語一言聞こえず真剣。素晴らしい集中力です。

続いて各々選んだ絵柄、難波田城ロゴ、名前の 3 つの型紙をハンカチに置き、糊をのせます。大苦戦しながら上手にできたかな？ ドキドキです。

絵柄は 3 種類ありましたが「なんぼった」が人気で、大渋滞になりました。糊が乾くまで昼ごはん。

最後は染めて仕上げ。手も青くしながら、きれいに染まるまで頑張りました。迎えに来た家族に、作った様子を説明しながら作品を見せ、満足そうでした。今回の体験を通じて、ものづくりの魅力を感じてもらえればと思います。(早川純彦)



慎重に糊をのせます



オリジナルハンカチの完成！

人の創ったもの★人の使ったもの

なつかしの観光旅行

来年 8 月まで穀蔵展示室で開催中の「なつかしの観光旅行」の展示資料について解説します。

旅は人を再生する

仕事での出張や、スポーツ大会などではなく、旅先を楽しむための旅を観光旅行と呼びます。

楽しみとしての旅は、その多くが、人生の節目の時期（修学旅行、新婚旅行など）や、毎年決まった時期に実行されます。日常をリセットして新たな自分（または“本来の自分”）を見出す“再生”^{レクリエーション}なのです。

人は旅を再生する

旅人は、旅先の貴重な時間を割いて写真を撮り、みやげを買います。かつては、みやげに実用的な意味もありましたが、いまは、旅に行った証し、記念としての役割が主になっています。

年月を経て写真やみやげ品を見返すと、旅の思い出がよみがえります。友だちとのやりとり、家族そろって過ごした時間、旅先での出会い …

モノを通して旅は“再生”^{リプレイ}されます。博物館の資料が歴史を語るように、他人にはありふれたものが一人一人には、かけがえが無い“歴史遺産”です。

このコーナーでは、地元に関する資料を紹介いたします。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

酒本コレクション

さかもとまさつぐ

当館には、酒本正次氏（明治 35～平成 4 年 1902-92）が収集した旅行関係のパンフレットが 1200 点以上寄贈されています（写真）。酒本さんは、戦前から鶴瀬駅前で肥料店を営み、富士見町議会議員などもつとめた方です。

パンフレット（以下「パンフ」と省略）は年代が明らかなものでは、昭和 3 年(1928)から 57 年(1982)におよびます。パンフで紹介されている観光地のほとんどが国内（44 都道府県）ですが、戦前の資料には、当時日本の支配下にあった台湾・樺太・朝鮮・満州を含み、戦後は、ハワイを含みます。すべての観光地に行ったわけではないでしょうが、大部分は旅先で入手したようです。

パンフの種類としては多い順に、宿泊施設のパンフ、交通機関（鉄道など）の沿線観光案内、自治体や温泉組合などによる観光案内、観光施設のパンフ、観光ツアーのチラシと参加者への案内、観光地の交通機関（バス、遊覧船など）のパンフなどです。

同じ観光地や宿泊施設でも戦前・戦後の数時期のパンフがそろっている場合があります。

これらを観ているうちに、時空を越えた旅をした気分になります。（早坂廣人）



みやげもの数々



酒本コレクション

＊ ＊秋のイベント予定＊ ＊

●資料館友の会作品展

手作りの、土器、拓本、織物、竹かごなどの作品を展示します。

会期／9月9日(土)～10月1日(日)

会場／難波田城資料館特別展示室

●富士見市児童・生徒社会科展

市内小中学生による、夏休みの自由研究の作品を展示します。各校から選ばれた約 80 作品です。

会期／10月7日(土)～15日(日)

会場／難波田城資料館特別展示室

●平成 29 年秋季企画展

「村の暮らしと河岸場-新指定文化財古文書展-」

この春に富士見市指定文化財となった古文書から、江戸時代の暮らしをさぐります。

会期／10月21日(土)～1月8日(月・祝)

会場／難波田城資料館特別展示室

●穀蔵テーマ展示「なつかしの観光旅行」

国連は、2017 年を「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定しています。これにちなみ、昭和の時代の「旅」にまつわる展示を行っています。

会期／来年 8 月初めまで

会場／穀蔵展示室

●ふるさと体験「お月見だんごづくり」

とき／9月10日(日) 午前10時～正午

定員／8組(申込み順) 参加費／1組 500円

会場／旧金子家住宅

申込み／9月1日(金)～3日(日)に電話で

協力／市民学芸員

●拓本体験教室

石碑の文字を和紙に写しとる「拓本^{たくほん}」を体験します。作品はカレンダーに仕上げ、持ち帰れます。

とき／9月30日(土) 午前10時～午後3時

会場／講座室

定員／8人(申込み順) 参加費／500円(材料代)

持ち物／昼食 申込み／随時。直接または電話で

指導／資料館友の会拓本部会

●第 29 回ふるさと探訪

古刹 平林寺を訪ねる

とき／10月14日(土) 9時10分～12時30分

集合／志木駅南口前 定員／30人(申込順)

参加費／500円(当日集金)

他に入山料 500円とバス代(片道 220円)が必要です。

申込み／9月30日(土)～10月11日(水)

定員／30人(申込み順)

主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

●さつまいも掘り(試食あり)

とき／10月22日(日) 午前10時～正午

(小雨決行。悪天候の場合 29日に延期)

定員／30組(申込み順) 集合場所／旧金子家住宅前

参加費／1組 1,000円。1人で参加の方は他の方と

組んでいただく場合があります。

申込み／10月1日(日) 午前9時から電話で

主催／難波田城公園活用推進協議会・難波田城資料館

●古民家コンサート

動画「チキンアタック」の世界を再び！ 古民家にヨーデルが響きます。

とき／10月22日(日) 午後1時30分～2時

会場／旧大澤家住宅 出演／小山のぞみ

定員／100名程度(当日先着順) 参加費／無料

主催／難波田城公園活用推進協議会・難波田城資料館

●扇だこづくり

かつて富士見市の特産品として知られた郷土民芸「扇だこ」をつくります(全2回)。

とき／12月2日(土)・3日(日)

午前10時～午後3時

会場／講座室 定員／8人(中学生以上、申込み順)

参加費／1,000円(材料代)

指導／扇だこ保存会 申込み／随時、電話か直接

ちよっ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

9月24日(日)おはぎ

10月22日(日)ふかし芋

※11時から。売り切れ次第終了

11月 お休み

田舎まんじゅう販売
第 1.3 日曜日 10:30～
お月見亭
(予約制手打ちうどんランチ)
第 2 火曜(10月は第 3)



富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)

資料館公式サイト

